

報道関係者 各位

平成 24 年 4 月 20 日

【照会先】

健康局 結核感染症課

課長補佐 難波江 功 二(内線 2373)

専門官 喜多 洋 輔(内線 2928)

(代表電話) 03 (5253) 1111

(直通電話) 03 (3595) 2257

## 4 月 21 日から 4 月 28 日は「世界予防接種週間」です



WHO（世界保健機関）は、今年 4 月 21 日（土）から 28 日（土）を「世界予防接種週間」（World Immunization Week）とし、期間中、世界各国に呼びかけて予防接種のキャンペーン、啓発活動、情報共有を行います。

日本においても、この「世界予防接種週間」を通じて、世界には予防接種により命を救われる人や、必要な接種を受けられない子どもたちが数多くいることなど、予防接種の意義について国民の皆さまに改めて考えていただくとともに、予防接種を引き続き受けていただける機会となるよう、情報提供を行ってまいります。

なお、日本では毎年 3 月 1 日から 7 日を「子ども予防接種週間」としており、日本医師会、日本小児科医会、厚生労働省の主催で、各種の取り組みを行っています。各地の医療機関、予防接種センターと協力しながら、入園、入学前の子どもの保護者に対して、予防接種の広報・啓発活動を行い、各種相談に応じるほか、平日に接種を受けにくい人のために土曜日・日曜日に予防接種を実施しています。

厚生労働省ウェブサイト「予防接種情報」のページを設けており、予防接種に関するさまざまな情報提供を行っています。

URL：[http://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou\\_iryuu/kenkou/](http://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/)

[kekkaku-kansenshou/infulezna/kekkaku-kansenshou20/](http://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekkaku-kansenshou/infulezna/kekkaku-kansenshou20/)

（トップページ、「分野別の政策」の「健康・医療」から「健康」をクリック

→ページ中程「施策情報」の「予防接種」をクリック）

### ■添付資料

- 資料 1 世界予防接種週間について
- 資料 2 予防接種に関する情報提供について

## 【世界予防接種週間について】

(WHO ウェブサイトから抜粋)

世界予防接種週間は、WHO を主導として、WHO に属する世界各国が、国民の皆様（特に子どもをもつご両親）に対し、お子さんが健康でよりよい人生を送ることができるよう、予防接種の効果について理解を深めてもらい、お子さんへの接種を推進するよい機会として、2011 年（平成 23 年）より開催しています。

予防接種は、最も費用対効果が高く、成功率の高い健康施策の 1 つであり、世界で年間約 200-300 万人の死亡を防いでいます。予防接種は、子どもから高齢者まで、A 型および B 型肝炎、麻疹、おたふくかぜ、肺炎球菌疾患、ポリオ、ロタウイルスによる腸炎、破傷風、黄熱などの疾患に対して、重症化、障害の発生、死亡を予防します。また、インフルエンザ、髄膜炎、肝炎や子宮頸がんなど成人期におこりうる疾患に対しても、ワクチンがもたらす恩恵は中高生や成人にも広がっています。

皮肉なことに、ある感染症が予防接種によって稀な疾患となった場合、予防接種によって獲得した免疫が感染症の流行を抑制していることが忘れられてしまい、医療関係者やご両親が、予防接種の必要性がないと誤った判断をされる可能性があります。しかし、予防接種により国民全体の免疫水準を維持するためには、皆様一人ひとりが予防接種の接種機会を確保し、社会全体として一定の接種率を確保することが重要です。

### ○予防接種の効果について

- ・予防接種は、ジフテリア、破傷風、百日咳、麻疹、おたふくかぜ、風疹などに対して、世界で年間 200-300 万人の死亡を予防します。
- ・予防接種をうけている子どもは増え続けています。2010 年（平成 22 年）には、一歳以下の 1 億 9 百万人が DPT（ジフテリア・破傷風・百日咳）ワクチンを受けることができました。
- ・2010 年（平成 22 年）においては、約 1930 万人が DTP ワクチンを受けられませんでした。このうち、70%がアフガニスタン、コンゴ共和国、インド、インドネシア、イラク、ナイジェリア、パキスタン、南アフリカ、ウガンダに住む子どもたちです。
- ・2008 年（平成 20 年）において、5 歳の誕生日を迎える前にワクチンによって予防できる疾患によって亡くなった子どもは 170 万人いたと考えられています。
- ・ポリオ根絶計画によって、ポリオの発生率は 99.8%抑えられており、約 700 万人がポリオによる麻痺から解放され、障害を持たずに歩いています。ポリオが地球上から排除されれば、2035 年までに、主に途上国において、US\$ 500 億米ドルの出費を抑えることができます。

■WHO 予防接種週間 HP (英語)

[http://www.who.int/immunization/newsroom/events/immunization\\_week/2012/further\\_information/en/index.html](http://www.who.int/immunization/newsroom/events/immunization_week/2012/further_information/en/index.html)

■WPRO (WHO 西太平洋事務局) 予防接種週間 HP (英語)

<http://www.epi-westernpacific.info/immunizationweek2012>

## 【予防接種に関する情報提供】

国民の皆様が正しい知識を持ち、予防接種を受けられるよう、厚労省では予防接種の推奨と情報提供を行っています。

### 1. 予防接種についての一般情報

- 厚生労働省 HP「予防接種情報の案内」

[http://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou\\_iryuu/kenkou/kekkaku-kansenshou/infuenza/kekkaku-kansenshou20/](http://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekkaku-kansenshou/infuenza/kekkaku-kansenshou20/)

- 感染症情報センター 予防接種情報

<http://www.nih.go.jp/niid/ja/vaccine-j.html>

### 2. 特に情報提供を行っているワクチン

厚労省では、下記のワクチンについて、特に情報提供を行っています。

#### (1) 麻しん

現在、日本では、麻しんの排除、かつ、その後も排除状態を維持することを目標として、「麻しんに関する特定感染症予防指針」に沿って取り組んでいます。この中で、麻しんの発生予防およびまん延の防止のために、①予防接種法に基づく接種対象者、②麻しんに罹患すると重症化しやすい者と接する機会が多い方に対し、予防接種を受けるよう推奨しています。

(参考情報)

- 厚生労働省「麻しんおよび風疹について」

「麻しんに関する特定感染症予防指針」、麻しんについての Q&A などを掲載しています。

<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou21/>

- 国立感染症研究所 感染症情報センター 「麻しん」

予防接種対象者への呼びかけ、麻しんの国内発生状況などを掲載しています。

<http://www.nih.go.jp/niid/ja/diseases/ma/measles.html>

#### (2) ワクチン接種緊急促進事業のワクチン

下記の 3 ワクチンはワクチン接種緊急促進事業の対象としており、国際動向、疾病の重篤性等にかんがみ、ひきつづき、平成 24 年度以降も対象年齢層に接種の機会を提供して、これらの予防接種を促進するための補助を行っています。

- ・子宮頸がん予防（HPV）ワクチン
- ・ヒブ（インフルエンザ菌 b 型）ワクチン（乳幼児の髄膜炎等重症感染症を予防するワクチン）
- ・小児用肺炎球菌ワクチン（乳幼児の髄膜炎等重症感染症を予防するワクチン）

(参考情報)

■厚生労働省「ワクチン接種緊急促進事業について」

HPV ワクチンについてのリーフレット、医療者向けの肺炎球菌ワクチンやヒブワクチンについての Q&A、ワクチンの安全性についての情報などを掲載しています。

<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou28/>

(3) 日本脳炎

日本脳炎の予防接種については、マウス脳由来の日本脳炎ワクチン接種後に副反応の事例があったことから、平成 17 年から 21 年度まで接種のご案内などを差し控えていましたが、平成 21 年 2 月に乾燥細胞培養日本脳炎ワクチンが開発され、平成 22 年度から接種のご案内などを再開しています。平成 24 年度は、通常の対象者（3 歳、4 歳）だけでなく、平成 17～18 年度に生まれた方は、平成 17～21 年度に日本脳炎の予防接種を受ける機会を逃していることがありますので、接種のご案内を行っています。

(参考情報)

■厚生労働省「日本脳炎の予防接種についてのご案内」

日本脳炎の接種を逃した方への案内、Q&A などを掲載しています。

<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou20/annai.html>

■国立感染症研究所 感染症情報センター 「日本脳炎」

日本脳炎の臨床症状、予防接種や治療法などについて掲載しています。

<http://www.nih.go.jp/niid/ja/diseases/na/je.html>

(4) ポリオワクチン

現在、不活化ポリオワクチンの導入は、2012（平成 24）年の秋を目指しています。免疫をもたない人が増えると、国内でポリオの流行が起こってしまう危険性があるので、不活化ポリオワクチンの導入まで、ポリオワクチンの接種を待つことはおすすめできません。お住まいの市町村がご案内する時期にポリオワクチンの接種を受けることをおすすめします。

(参考情報)

■厚生労働省「ポリオワクチン」

ポリオとポリオワクチンについての Q&A、不活化ポリオワクチンの開発状況、ポリオワクチンの接種率調査結果などを掲載しています。

<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/polio/>

■国立感染症研究所 感染症研究所 「ポリオ（急性灰白髄炎・小児麻痺）」

ポリオの臨床症状、予防接種、WHO のポリオ根絶計画について掲載しています。

<http://www.nih.go.jp/niid/ja/diseases/ha/polio.html>